

企画展

和歌山の文化財を守る

平成30年(2018)

9月1日(土)

10月4日(木)

— 仏像盗難防止対策と近年の文化財修理 —

平成30年3月に盗難被害に遭った後、取り戻すことができた
平安時代の十一面観音立像(西山観音堂蔵・紀の川市指定文化財)



ミュージアム・トーク
(担当学芸員による展示解説)

9月1日(土)、16日(日)、30日(日)

毎回、13時30分~14時30分
申込不要(入館手続きが必要です)

開館時間: 9時30分~17時
(入館は16時30分まで)

入館料: 一般 280円(220円)
大学生 170円(140円)
※()内は20人以上の団体料金
※高校生以下、65歳以上、障害者、
県内に在学中の外国人留学生は無料

休館日: 毎週月曜日
(ただし9月17日(月・祝)、
9月24日(月・祝)は開館し、
9月18日(火)、9月25日(火)は休館)

アクセス: JR和歌山駅・南海和歌山市駅からバス
「県庁前」下車、徒歩2分

駐車場: 展示室入場者は最初の2時間無料、
以後30分ごとに100円追加、
1日最大700円。



平成22年10月に盗難被害に遭った後、
取り戻された愛染明王立像(左、円福寺蔵)と
3Dプリンター製お身代わり仏像(右)

企画展 和歌山の文化財を守る—仏像盗難防止対策と近年の文化財修理—

全国で仏像など文化財が盗まれる事件が多発しています。和歌山県では、平成22年(2010)～23年春にかけての1年間で、約60か所のお寺やお堂から仏像172体などの文化財が盗まれるという、過去に例のない連続文化財盗難被害が発生しています。また昨年から今年にかけても、岩出市、紀の川市、和歌山市で60体を超える仏像が盗まれており、非常事態ともいえるべき状況となっています。

長い間信仰され守られてきた「仏さま」が盗まれる大きな要因は、地域住民の高齢化や人口減少によってお堂や祠の日常的な管理が困難になる中、そうした隙を換金目的の窃盗犯に狙われていることにあります。今もなお、文化財が盗難被害を受ける危険性は高いままであり、人びとの信仰の蓄積と地域の歴史をものがたる大切な文化財を失わないために、ただちに対策を行う必要があります。

この企画展では新たな被害を防ぐためのアピールとして、実際に盗難被害にあって取り戻された文化財を展示して、身近な寺社や祠堂の防犯対策について紹介するとともに、和歌山県立和歌山工業高等学校・和歌山大学と連携して制作している3Dプリンター製お身代わり仏像を活用した特徴的な防犯対策の事例を紹介します。

あわせて、近年修理を行って、保存に適した良好な状態を取り戻した文化財(絵画・彫刻・工芸品)を展示し、和歌山県の文化財を未来へ継承していくための取り組みをご紹介します。



博物館で保管する所蔵者不明の盗難被害資料のうち、香炉がかつらぎ町遍照寺のものと判明!



阿弥陀如来坐像 (所蔵者不明の盗難被害資料)



海南市海雲寺の釈迦如来坐像 (左) と3Dプリンター製お身代わり仏像 (右)



十王図 浄教寺蔵 和歌山県指定文化財
平成29～30年修理



熊野観心十界曼荼羅 観音寺蔵 平成30年修理



風神像 粉河寺蔵 平成29～30年修理